

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：17102

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2022

課題番号：21K19951

研究課題名（和文）言語能力のない動物も含めた“他者”解釈のための一般的理論の構築

研究課題名（英文）Constructing general interpretation-theory for linguistic and non-linguistic animals

研究代表者

中谷内 悠（Nakayachi, Yu）

九州大学・人文科学研究院・学術研究員

研究者番号：90908170

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：他者の観察可能な行動をもとにして、その人の思考をどのようにして知ることができるのか、という他者解釈（他者理解）の問題に本研究は取り組んだ。他者解釈には、個々の場面で他者が何を考えているのかを解釈する側面、そして、そこに含まれることとして他者の思考能力・概念能力を解釈するという側面がある。

本研究では、言語行動と非言語行動のそれぞれが、他者の思考を解釈するうえで果たす役割、そして、言語能力のある生物と無い生物の思考能力・概念能力の違いを明らかにしようとした。成果として、表象の形式の観点からの説明を提示し、さらに概念の相対主義に関する議論のうちに、概念の多様性に関するより具体的な特徴づけを探った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでの研究では、言語行動をもとにした解釈理論が精緻化されてきたが、近年では、動物認知研究の理論的枠組みとして、言語能力のない動物の思考を、非言語行動をもとに解釈する方法を明らかにすることが期待されている。

この研究を通じて、表象の形式や、概念の多様性に着目することで、思考能力・概念能力を理解するための理論的な枠組みの可能性が提示されることとなった。

研究成果の概要（英文）：This research addressed the problem of interpreting others (understanding others), that is how we can know what others think based on the observable behaviors of others. Interpretation of others has two aspects: the aspect of interpreting what others are thinking in particular situations, and the aspect of interpreting the thinking and conceptual abilities of others as being included in this aspect. In this research, we attempted to clarify the role of verbal and nonverbal behaviors in interpreting the thoughts of others, and the differences in the thinking and conceptual abilities of creatures with and without verbal abilities. As an outcome, we presented an explanation in terms of the form of representation and further explored more specific characterizations of conceptual diversity in the discussion of conceptual relativism.

研究分野：哲学

キーワード：心の哲学 他者理解 動物の心 概念相対主義 心的内容

1. 研究開始当初の背景

他者の心にまつわる問題には「他我問題」と「他者理解の問題」という二つの問題が存在する。自身は心をもち、そしてどのようなことを考えているかがわかっているが、他方で「他者が心をもつことをどのように知ることができるのか」(他我問題)そして、「他者がどのようなことを考えているのかをどのようにして解釈することができるのか」(他者解釈の問題)という問題であり、デカルト以降、議論の蓄積のある他我問題に対し、他者解釈の問題は現代において注目されている問題であり、本研究ではこちらに取り組む。

これまでの研究では、言語行動をもとにした解釈理論が精緻化されてきたが、近年では、動物認知研究の理論的枠組みとして、言語能力のない動物の思考を、非言語行動をもとに解釈する方法を明らかにすることが期待されている。しかし、現状では以下3つの課題が存在する。

- (1) 従来の主な研究では、解釈の対象となるのは人に限定されており、提案されてきたのは言語行動のみにもとづく解釈理論であった。そのため、思考を解釈するうえで、非言語行動はどのような役割を果たすのか、また言語能力のない生物はどのようにして解釈されるのかを示されていない。
- (2) また動物認知に関する哲学的研究の領域では、言語能力のない生物の解釈理論がいくつか提案されているが、それらは以下でいう観察問題に直面する。他者解釈の問題では、観察できる行動をもとに思考を解釈することが課題となる。他方で提案されてきた理論では、基礎となる行動を特徴づける際に、行為者の意図をあらかじめ読み込んでしまい、結果として観察によって知ることができない事実を他者解釈の基礎とみなしてしまっている(観察問題)。従来の言語行動にもとづく理論と比べ、これらの提案は未だ途上の段階といえる。
- (3) 従来の精緻化された言語にもとづく理論を展開する仕方で、言語行動と非言語行動の両方を基礎とした解釈理論が提案されてはいるが、なぜ非言語行動が必要となるのか、その役割は何か、という理論的な根拠が示されていない。

2. 研究の目的

他者の観察可能な行動をもとにして、その人の思考をどのようにして知ることができるのか、という他者解釈(他者理解)の問題に取り組んだ。他者解釈には、個々の場面で他者が何を考えているのかを解釈する側面、そして、そこに含まれることとして他者の思考能力・概念能力を解釈するという側面がある。

本研究では、言語行動と非言語行動のそれぞれが、他者の思考を解釈するうえで果たす役割、そして、言語能力のある生物と無い生物の思考能力・概念能力の違いを明らかにしようとした。

3. 研究の方法

- (1) 言語能力のある生物の場合とは異なり、言語能力のない生物の場合、その思考を言葉で正確に特徴づけることができないという現象（不確定性）に着目した一連の議論に取り組む。
- (2) 概念相対主義に関わる議論に取り組む。概念相対主義の議論は概念能力の多様性に関連する。さらに、概念能力が異なるといえるための規準に関わる議論も含まれる。

4. 研究成果

A. 言語能力のある生物の場合とは異なり、言語能力のない生物の場合、その思考を言葉で正確に特徴づけることができないという現象（不確定性）に着目した一連の議論の整理・考察を行い、以下の点を明らかにした。

- (1) 言語能力のない生物への思考帰属に関しては、明確に真偽が問えるわけではないが、適切さの度合いに関する判断が可能であることを理由に、少なくとも消去主義的な考えは支持されないことを明らかにした。
- (2) 不確定性を表象の形式の違いによって理解しようとする、動物認知の哲学研究者である Jacob Beck のアプローチのメリットと問題点を明らかにした。具体的には、画像表象と言語表象の違いに着目し、言語能力をもたない生物は画像表象しかもたないという点で言語能力をもつ生物とのあいだに違いがあり、それによって不確定性をうまく説明できる点で Beck の考えにはメリットがあることを確認した。他方で、表象の形式の違いに基づく説明には、表象内容の特徴づけに関わる困難が含まれることを明らかにした。

B. 概念相対主義に関わる議論に取り組み、以下のことを行った。

- (1) 第一に、概念相対主義に関するこれまでの議論の整理と批判的な考察を行い、さらにこれまでの議論の捉え直しも行った。これまでは、概念相対主義が擁護できるか否かという論点で議論が積み重ねられてきたが、それらの議論を、概念相対主義の擁護可能なテーゼと、擁護不可能なテーゼの区別を行うための議論として捉えなおした。そして、擁護可能なテーゼをもとに、理解可能なタイプの概念能力の多様性が確認された。
- (2) 第二に、概念相対主義に関するこれまでの議論を踏まえたうえで、概念能力の多様性のバージョンとして、言語能力のある生物と無い生物の思考能力・概念能力の違いについて考察した。そして、非言語行動をもとに理解することができる思考内容の特徴づけを行った。それと同時に、そのタイプの概念の多様性が、概念相対主義批判に当たらないような、理解可能なタイプの概念の多様性であることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 中谷内 悠	4. 巻 58
2. 論文標題 私たちとは完全に異なる概念の枠組みについて：真理と翻訳の観点から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 哲学論文集	6. 最初と最後の頁 37～56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15017/6758698	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------